

**製品名: CysLTR1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09684**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CYSLTR1
別名	CYSLTR1; CYSLT1; Cysteinyl leukotriene receptor 1; CysLTR1; Cysteinyl leukotriene D4 receptor; LTD4 receptor; G-protein coupled receptor HG55; HMTMF81
遺伝子 ID	10800.0
SwissProt ID	Q9Y271
免疫原	抗血清はヒト CLTR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

**背景**

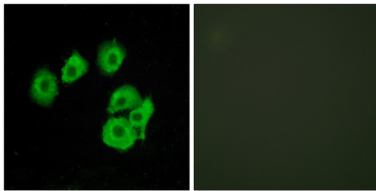
この遺伝子は G タンパク質共役受容体 1 ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質はシステイニルロ

イコトリエンの受容体であり、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムの活性化を介して気管支収縮を媒介します。コードされている受容体の活性化は、気管支平滑筋細胞の収縮と増殖、好酸球の遊走、そして肺の粘液層の損傷を引き起こします。この遺伝子の発現亢進は喘息と関連しており、発現不全は癌にも関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年8月]、機能：喘息の有無にかかわらず、気管支収縮を媒介するシステインロイコトリエンの受容体。LTD4 による刺激は、肺平滑筋の収縮と増殖、浮腫、好酸球の遊走、粘液層の損傷を引き起こします。この反応は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質を介して媒介されます。ロイコトリエンに対する親和性の順位は、LTD4 >> LTE4 = LTC4 >> LTB4 です。、その他：モンテルカスト（シングレア）、ザフィルルカスト（アコレート）、プラナルカスト（オノン）などの選択的拮抗薬は、喘息発作の治療に使用されます。、類似性：G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。、組織特異性：広く発現しており、脾臓と末梢白血球で最も多く発現します。肺（主に平滑筋束と肺胞マクロファージ）、胎盤、小腸、膵臓、結腸、心臓などのいくつかの組織では発現が低い。

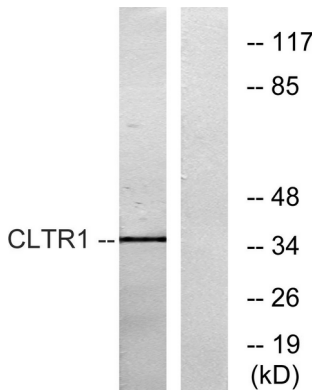
## 研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

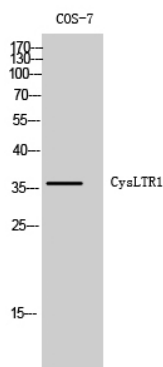
## 画像データ



CLTR1 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



CLTR1 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



CysLTR1 ポリクローナル抗体を用いた COS-7 細胞のウェスタンブロット解析

